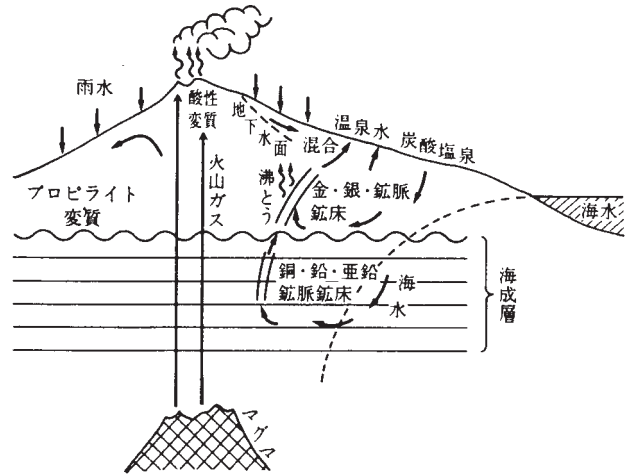


知床から金が出るのか？

前回の「日本からダイヤモンドが出るのか？」に続き、今回は「知床から金が出るのか？」です。貴金属の中でひととき魅力的なのは金でしょう。金は原子番号79の非常に重い金属です。重い（大きい）ため、結晶の中には含まれず、濃集された段階で単独鉱物として粒状や箔状で産出します。

マグマから濃集する場合、わずかに入っていたマグマ中の金がシリカ成分に富むマグマの残液に濃集し、巨晶花崗岩（ペグマタイト）となって姿を現します。南アメリカ大陸などの大きな大陸の花崗岩ではこのような巨晶花崗岩で金ができますが、日本のような「島国」では大陸地殻の規模が小さく、巨晶花崗岩はめったに産出しません。

では、「黄金の国ジバング」の金はどのようにして生まれたのでしょうか？みなさんは「金鉱脈」という言葉を耳にしたことがあるでしょう。金鉱脈は金に富む鉱液が流れた現象です。では、どのようなシステムで流れたのでしょうか。



陸の熱水系モデル (鹿園, 1988)

が生まれます。つまり、金の供給源の海成層とそれを濃集する役目の酸性のマグマが必要なわけです。北海道では鴻之舞金山のようにそれらが重なる地域に金鉱床が作られます。日本最大の鹿児島県菱刈金山も中生代の海成層である四万十（しまんと）層と第三紀花崗岩（近くの屋久島は島全体が同じ第三紀花崗岩）の境界で金鉱床が作られています。

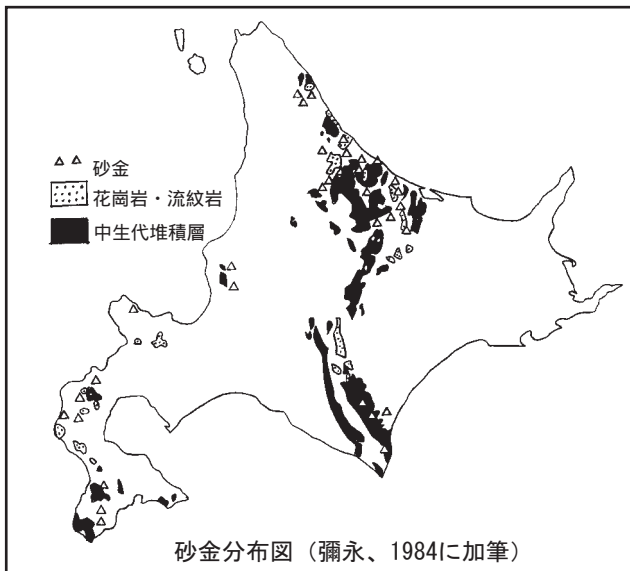
知床では「金山（かなやま）」という地名が知床半島基部の斜里側にも標津側にも残っています。そこから金が取れたのでしょうか。残念ながらそこは知床半島の最初の火山活動である緑色凝灰岩中に金色に輝くサイコロ状の黄鉄鉱が分布している地域です。

では、知床からは金が産出しないのでしょうか？今世界で注目されている金鉱床は、金鉱石ではなく、温泉中にコロイド状で溶け込んでいる金です。青森県下北半島の恐山が有名ですが、知床では川北温泉の中に金が

1.4 g / t 含まれていることが知られています。今度川北温泉に行かれた際には、湯船の底のドロの中に金を想像しながら、リッチな気分でご入浴しましょう。（合地信生）



川北温泉



上の図は北海道における中生代の海成層および花崗岩・流紋岩の分布と砂金との関係を示しています。北海道での金の産地は、道南と北海道中軸部の東側の2つの地域に大きく分かれています。それらの地域は中生代堆積物と花崗岩・流紋岩の分布地域でもあり、それらの地層が金の形成と密接な関係があることが分かります。

そしてそれらの関係は右上の図の熱水系モデルで示されます。鉱液は図のように、熱源のマグマの近くに位置する海成層中の金属が溶かされて作られます。なぜ海成層が重要なのでしょうか？海中には多くの金が溶かされています。それらの金は静かにゆっくりと微量ですが海底に沈殿していきます。それらの金を含む海成層に熱水が供給されると微量の金が濃集して金鉱液になり、金鉱脈

トピックス 油まみれの海鳥の情報は、斜里町役場のホームページに詳しく掲載されています 5000羽以上回収されています 痛ましいかぎりです そんななか3/25清里町の工場から斜里川へ油流出事故がありました 斜里橋から見下ろすと、オイルフェンスを張った河口に向かって油の帯が流れていました 翌日、同じ場所でコガモ(美しい)が泳いでいて...とても不安になりました 海からも川上からも人の脅威にされされて、今更ながら自然はもろく壊れやすいことを痛感しました。(ひら)

発行 斜里町立知床博物館協力会 2006.3.30

099-4113北海道斜里郡斜里町本町49
斜里町立知床博物館内

TEL:0152-23-1256 FAX:0152-23-1257

http://www5.ocn.ne.jp/~museumsp/